

東海労 関西	2026年	JR東海労新幹線関西地方本部	
	1月27日	発行責任者 笹田 伸治	
	第981号	編集責任者 教 宣 部	

Aさんの勇気を孤立させるな！

暴力と脅迫で口を封じる

サービック労組役員の大暴走を許すな！

いま、サービック労組の組合員Aさんが、労働組合のあり方を問うために勇気を持って立ち上がっています。しかし、それに対する浦川委員長・大城副委員長らサービック労組執行部の回答は、あまりにも卑劣な「暴力」と「無視」でした。

サービック労組組合員のAさんは、執拗な嫌がらせを受け続けています。

昨年12月10日、大城副委員長は帰宅途中のAさんの腕を強引に掴み、飲食店へ連行。2人がかりで40分間も拘束し、「他の組合に入っていたらヤバいことになる」と脅迫しました。これはもはや組合活動ではなく、「暴行・監禁」という犯罪行為です。

今年1月13日には、浦川委員長を含む4名もの役員が、Aさんを駅の改札口まで執拗に追いかけて回しました。多人数で囲み、心理的に追い詰める。これが、働く仲間を守るべき組合役員のすることでしょうか？

1月21日、Aさんが勇気と誠意を持って送った抗議の書面を、浦川委員長は、中身も見ずに送り返すという、社会人として、また労働組合の代表としてあるまじき対応を行いました。

Aさんは、みんなの「盾」になってくれている！

サービック労組執行部がAさん一人を標的にするのは、「逆らう者にはこうするぞ」という全組合員への見せしめです。こんなことを絶対に許してはなりません。いま、Aさんの勇気を支え、Aさんを護ることは、私たち自身の自由と権利と利益を護ることに直結しているのです。

浦川委員長、大城副委員長！？みんな見ているぞ！！

「一度会ってゆっくり話したい」などという言葉で、また密室に連れ込み、丸め込もうとしても無駄です。あなたがたがすべきことは、アポイントを取らせることではなく、まずは自らの暴力と脅迫を認め、全組合員の前で謝罪することです。

みなさん、この事実を職場に広めてください！

暗闇で行われる嫌がらせは、光の下(公開)に出されることを最も嫌います。暴力で組合員を支配する組合に、未来はありません。

私たちは、不当な弾圧に勇気と誠意を持って立ち向かっているAさんを支持します！